「できること」への気づきと就職レディネス

インタビュー

地域若者サポートステーション

あだち若者サポートステーション
総括コーディネーター
望月甲子男氏

相談員（GATB担当）
三森徳子氏

あだち若者サポートステーション

地域若者サポートステーション（愛称:「サポステ」）は、働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、キャリアコンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、協力企業への就労体験などにより、就労に向けた支援を行う。全国で173カ所設置されており、無料で利用できる。あだち若者サポートステーションは厚生労働省と足立区の委託を受け、NPO法人青少年自立援助センターが運営している。
東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター 8F
TEL●03-3882-4307
開所時間:月～土曜日　10:00～18:00
HP●http://www.ayss.jp

■「自分はできていない」と思う

三森　なかなか自信を持てないという利用者の方は多いですね。学生時代に成功体験が少ないようです。

　不登校だったために、本来学校生活で得られるトライ・アンド・エラーの経験がないままにきている方も中にはいらっしゃいますが、登録してここに通ってくるうちに、当初よりもすごく表情がよくなっていたり、自分のできることに気づいていったりしていると感じることが多いです。でも、それを伝えると「いえ、全然できてないです」と言う。傍目からはとてもできていたり熱心にやっていたりするように見える部分もあるのに、自分ではそれがすごいこととは思っていない。成功体験といってもそれほど大袈裟なものではなくて、ちょっとした「できた感」でいいと思うんですけれども。

　生活リズムが乱れている方も多いので、サポステに通うことでリズムづくりから徐々にできていきます。それも成功体験の一つですから―本人はあまり気づかないんですけど―、そこは周りが伝えるようにはしていますね。

　利用者としては、卒業の時に就職活動をしなかった、進路を決められなかった、あるいは「そこから逃げちゃった」と言われる方、学生時代からのアルバイトを続けたり、長く有期雇用の仕事を続けてきたが、「正社員になりたい、どうしよう」という方、また学生時代のアルバイトも含めて仕事経験のない方などがいらっしゃいます。人間関係でつまずいてなかなか立ち直れずにひきこもっていたということもあります。

　あだち若者サポートステーションでは、他の参加者とロールプレイングなどのグループワークを行い、振り返って「この部分はできている」とか「この部分はできていなかったからまたチャレンジしていく」といった様々なセミナーを用意しています。場慣れ、人馴れするところから始めて就職までの段階を踏めるような形で作っていますね。

望月　サポステの利用期間は半年を目途にしていますが、人それぞれです。1～2カ月で就職が決まる方もいらっしゃいますし、6カ月で終わりというわけでもありません。平均すれば3カ月くらいでしょうか。年齢層は20代前半が一番多いですね。

三森　だいたい週1～2回、無理のない範囲で好きなプログラムを利用していただきながら、スタッフとの相談やキャリア・カウンセリングを絡めてサポートしていきます。

■コミュニケーションの苦手意識

三森　コミュニケーションが苦手とい

う方は目立ちますね。実際話してみると話せるように見えるのに、苦手意識は強い。人の数が多くなると極端に苦手意識が出る方もいらっしゃいます。それと、同世代に対する苦手感ですね。ここのスタッフはだいたい自分より年上なのであまり緊張しないで話せるけれど、同じくらいの年齢の人は苦手だ、雑談ができない、など。

コミュニケーションセミナーは、話すこと、聴くことのポイント、コツをレクチャーしながら、実際にやってみる。グループワークを一対一とか2～3人で、テーマを決めて話す形ですね。仕事場でのコミュニケーション、ビジネス系の報告・連絡・相談や指示の聞き方なども織り込んでいます。

社会人講話のセミナー

望月　皆さんが意識しすぎという面もあるのではないでしょうか。たまたまうまく人間関係が構築できなかったことを自分のせいにしている。本当は別の要因があるのに、自分がコミュニケーションできないから駄目なんだと思っている。皆さんと話しながら、私はそのように感じることもあるんですよね。

三森　話すのがあまり得意ではないからといって、仕事ができないわけではありません。最低限のやりとりは必要ですけれども、こつこつやる仕事もありますから、苦手なところをできるところでカバーするように、どのような仕事がいいか相談しながら考えていきます。うまくしゃべれるとかコミュニケーションできるという側面が評価されがちですが、本人がそこにとらわれすぎていることもあるかもしれません。

＜いいことし隊＞ボランティア活動で商店街の清掃を行う

あまり自信がなかった方でも、就職して実際に働いているところを見るとすごくいい表情になっている。サポステに来所した当初の表情を知っているスタッフからすると、実際に働く、社会に出ることで得られるものはやはり大きいと感じます。

■GATB、キャリア・インサイトの活用

三森　どういう方向に進んだらよいのかわからない、という利用者が多いので、やはり何かヒントがほしいんですね。職種、業種に関してほとんど知識を持っていない、自分で調べることもできていない。自分がどのような仕事をしたらよいのか、何も基準がないという初期段階に厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）を実施すると支援に役立ちます。隔月でGATBセミナーを2日間行っていますが、個々に行うキャリア・カウンセリング、本人の得意・不得意の気づきという点でプラスになっていると思いますね。スタッフやキャリア・カウンセラーとの面談の場面で、なかなか客観的なデータがないので、客観視できる材料としてすごく助かっています。

キャリア・インサイト（コンピュータによる職業適性診断システム）も、能力だけではなくて興味や価値観、行動特性の診断ができますので、やったことのない人はやったほうがいいですよ、という話をしています。パソコンが空いていれば利用できるようにしていて、パソコンでできると言うと「じゃあ、やってみます」という人が多いですね。

どちらもやった後に結果の数値やグラフだけぱっと見たままやりっ放しにならないように、カウンセラーとともに振り返りをするようにしています。GATBの結果で出た得意・不得意の傾向は「だいたい自分が思っていた感じだった」という方が多いです。ただ、数値が平均よりも下の範囲にある人の場合、それを見て少し落ち込む方もいらっしゃるので、キャリア・カウンセラーとの個別の相談の中で「あまりこれだけにこだわらずに」「自分の得意なところに目を向けましょう」という話をしてフォローしていきます。

望月　そうしたツールを利用しながら相談支援でコミュニケーションし、セミナーや職場体験によってモチベーションを上げ、社会に出る準備をしていただく。その中で利用者の方の自己肯定感を少しずつ高めていければと思っています。